

[1～2行目]

題名は20級(14ポ)で行の中央に

[3行目] (第3報, 主・副題目はゴシック体か強調印字で, 副題は14級(10ポ)で行の中央に) 鉛筆で

[1行空ける] (主・副題名が2行以上にわたる場合は1行当たり120mm以内とし行の中央に)

[1行空ける]

[著者名の書き始めは文字数が一番

設計太郎 (正, 日本設計大学工学部)

長い者の行に他の者も合わせる。

製図花子 (学, 日本設計大学大学院)

講演者の前に○を付ける。

○工学次郎 (正, 製図工業(株)設計部)

1行に1名, 全角14級(10ポ)程度]

図面喜三郎 (設計産業(株)総合事業部)

[2行空ける]

非会員の場合, 「非」は記入しない↑↑

[2行空ける]

1. はじめに [ゴシック体]

[1行空ける]

A4白紙縦置きで, 上下のマージンは20mm, 左右のマージンは18mm, 縦2段組, 左右の段間は10mm, 1段50行, 1行23文字の設定とする。本文文字の書体は明朝体, 大きさは14級(10ポ)とする。これらの条件を割付書式設定の基本とする。

章番号および章名は, ゴシック体あるいは強調印字で行の中央に書く。第2章以降は, 章番号および章名の前後と本文の間は1行空ける。ただし, 章や節が原稿用紙の最上段(最下段が章名や節名にならないよう)になった場合は, 前の文章と1行空けないで, 第1行目に書く。

[1行空ける]

1. 1 節名が2行以上にわたる場合の書き方はこの例による

前の文章と1行空け, 行の左端より1コマ空けて節番号を書き, 1コマ空けて節名をゴシック体あるいは強調印字で書く。本文は次の行から1コマ空けて書き始める。

新しい段落は, このように1コマ空けてから書く。文章の区切りには, 読点としてカンマを, 句点としてピリオドを用いる(括弧を付して補足説明する場合は, この例のように本文の句読点の前に括弧を挿入し, 括弧内の文章の最後には句読点を付けない)。

句読点は, 1コマ分を使用するが, 行の最後の場合に限り, 追い込んでよい。あるいは若干はみでもよい。数字, 英字や記号などは, 1コマに2字記入してもよい。文献番号は, ^{1), 2)} または ^{3) ~ 8)} のように上付文字で書く。

1.1.1 項名が2行以上にわたる場合の書き方はこの例による

前の文章との間には空行を設けず, 行の左端より1コマ空けて項番号を書き, 1コマ空けて項名を書く。本文は次の行から1コマ空けてから書き始める。項以下の区分は, (a), (b)あるいは(1), (2)さらに細かい区分は①, ②などとする。その書き方は, 項の場合に準じる。

2. 図表の書き方

[1行空ける]

日本設計工学会 20XX 年度春季研究発表講演会(20XX 年 Y 月 Z 日)
[12級(8ポ)で講演会名(西暦表示)をこのように表示する
日付を必ず記入すること。]

本文と図表の間は, 1行以上空ける。また, 次ページの見本のように, 図番・図名は図の真下中央に配置し, 表名・表番は表の真上中央に配置する。

図名, 表名は, 英語あるいは日本語で記述する。また, 図番および表番はそれぞれ, Fig.1 あるいは図 1, Table 1 あるいは表 1 のように通し番号としてゴシック体あるいは強調印字で書く。本文で引用するときは, 図 1, 表 1, …とする(ゴシック体)。

また, 図表はできるだけ下側および右段に寄せて配置するとよい。図表中の語句(キャプション)はすべて12級(8ポ)以上の大きさで, 図表名の言語に合わせた言語で記述する。採用言語は統一のこと。

3. 式の書き方

式は, 左端より3コマ以上空けて書き, 式番号は括弧を付して右端に書く。例えば,

$$a = b \sin \alpha + c \tan \beta \quad (1)$$

のようである。ただし,

$$b = \frac{d(e+f)}{g+h} \quad (2)$$

ここで, a : 変動荷重(kN)。

このように, 数式の書体については, 量記号はイタリック体で, 数学記号・単位記号(SI単位系)はローマン体で書く。分数を書くときは, 式(2)のような表記法を用いる。ただし, 本文中に記述するときは, $b = d(e+f)/(g+h)$ とする。

4. 両段にまたがる図表・式の場合

本文, 図, 表, 式, 脚注, 文献などは, 原則として1段(片側)に書き, 2段(左右両段)にまたがって書かない。ただし, 図, 表または式が1段に収まらない場合は, 2段にまたがって書いてもよいが, この場合は見本の表2のように当該ページの最下段あるいは最上段に配置し, 本文が図表等によって中断されないように書く。

5. おわりに

以上に述べたように, 原稿執筆において注意すべき事は, 読者が読みやすいように配慮することであ

る。最後のページの左右の段の上からの長さは、ほぼ同一となるように割り付けること。

参考文献

- 1) 設計太郎, 製図次郎: CAD設計論, 設計工学, 28, 13 (1995), 563. [和文雑誌の例]
- 2) Jones, P., Young, T. and Thomson, G.: Analysis and Design of a New Bearing, J. Machine Element, 43, 13 (1992), 145. [英文雑誌の例]
- 3) 設計花子: 機械設計の理論と応用, 新関東書籍 (1990), 236. [和文書籍の例]
- 4) Douglas, A.E.: Introduction of Mechanical Design, New York Pub. Co. (1993), 53. [英文書籍の例]

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

- 10) 日本設計工学会 編: 設計の原理, NPC 出版 (1994), 123. [和文書籍 (編集) の例]
- [1行以上空ける]

表1 実験のパラメータ
図表名が2行以上にわたる場合は、この例による

表題および表中の語句は、英語あるいは日本語のどちらかに統一する。(英語を推奨する。)

文字の大きさは、表題は14級(10ポ), 表中語句は12級(8ポ)以上とする。

[1行以上空ける]

図題および図中の語句は、英語あるいは日本語のどちらかに統一する。(英語を推奨する。)

文字の大きさは、図題は14級(10ポ), 図中の語句は12級(8ポ)以上とする。

図1 システムの概要

(他の文献から転載したときは図名の直下に、文献8)から転載、等と明記すること)

[1行以上空ける]

表2 適用したシステムの応答

--